

2024 年度
東京都立大学大学院 都市環境科学研究科
都市政策科学域 選抜試験（夏季）
博士前期課程（一般・社会人）（4月入学）

科目 < 専門科目 >
時間 12 : 30 ~ 14 : 30

- 注意事項：①問題の選択にあたっては、最初のページの冒頭の説明をよく読んで解答しなさい。
②解答は、配布された答案用紙1枚ずつに、選択した問題1題ずつを別々に解答しなさい。
③答案用紙の「学修番号」欄に「受験番号」を、「氏名」欄に「氏名」を、「題目」欄に問題のコード番号を記入してください。
④解答は、問題に指示がない限り日本語で行うこと。
⑤監督者の指示があるまで問題冊子は開かないでください（その他、監督者の指示に従うこと）。

受験番号	一般・社会人	氏名
------	--------	----

以下、601から613まで13個のコード番号について、それぞれ問題があります。

これら全13問（13コード）の中から2問（2コード）を選択して解答しなさい。

ただし、第一希望とした教員のコード番号の問題は、必ず選択すること。また、1問につき答案用紙1枚に解答すること。

教員コード

山村 崇	601
伊藤 史子	602
饗庭 伸	603
市古 太郎	604
朝日 ちさと	605
奥 真美	606
白石 賢	607

金子 憲	608
松井 望	609
長野 基	610
大槻 茂実	611
杉原 陽子	612
山本 薫子	613

解答には日本語または英語を用いること。

(1) 日本の大規模ニュータウン※における「オールドタウン化」問題について、その発生要因に言及しながら、600字程度（もしくは、英語300ワード程度）で説明しなさい。ただし、以下のキーワードを全て用い、それらには下線を引くこと。

(キーワード：世代の多様性、老朽化、住民活動)

※ここでいう大規模ニュータウンとは、国土交通省が「全国の住宅団地リスト」で抽出要件とした、以下の条件を満たす住宅・宅地開発事業で開発された地区を指すものとする。

条件[1] 昭和30年度以降に着手された事業。

条件[2] 計画戸数1,000戸以上又は計画人口3,000人以上の増加を計画した事業のうち、地区面積16ha以上であるもの。

条件[3] 郊外での開発事業（事業開始時にDID外であった事業）。

(2) 日本の大規模ニュータウンの「オールドタウン化」によって生じる、以下の課題について、それぞれ400字程度（もしくは、それぞれ英語200ワード程度）で説明しなさい。

- ① 近隣センターの再生
- ② 高齢入居者の孤立・孤独対策

602

ひっこし先を選ぶ場面を考える。ほぼ最終段階にさしかかり、多くの候補の中から 2 つの物件 House A と House B にしぼられたところである。評価基準として、通学・通勤所要時間（以下「Time」、図も同様）と物件価格（以下「Price」、図も同様）により選んでいる。

ここで、AHP（階層分析法, Analytic Hierarchy Process）により House A と House B のうちから最適な選択を行いたい。

以下の問に答えなさい。解答には日本語または英語を用いること。なお、問（2）（3）は導出過程も明記すること。

注：ウエイト計算には幾何平均法を用いること。（Use geometric mean method for weight calculations.） 解答では分数や平方根はそのままよい。（The fraction and square root can remain in the solutions.）

- （1） 右図のように階層ごとのすべての組合せについて評価する手順名称（Name of procedure）を答えなさい。
- （2） AHP により 2 つの評価基準 Time と Price の重要度(Weight)を求めなさい。
- （3） AHP により 2 物件 House A と House B の総合評価値(Total weight)を求め、最適な選択を説明しなさい。
- （4） 複数人の場合に AHP を用いて全員の合意により最適な物件を求める方法を説明しなさい。（Explain how to use the AHP to build consensus among multiple persons.）

		左が重要	左がやや重要	同程度	右がやや重要	右が重要	
評価基準として	Time		✓				Price

		左が好ましい	左がやや好ましい	同程度	右がやや好ましい	右が好ましい	
Time の観点で	House A				✓		House B
Price の観点で	House A	✓					House B

図 評価基準の重要度・物件の好ましさ

603

以下の（１）（２）（３）（４）（５）の各課題に対応するため、都市計画やまちづくりで使われる具体的な理論や方法、およびその詳細をそれぞれ300文字程度（または、英語150ワード程度）で解説しなさい。なお、各々の課題に対して複数の理論や方法があるが、全てを網羅する必要はなく、1種類以上の理論や方法の解答で構わない。また、日本固有の理論や方法である必要はない。解答には日本語または英語を用いること。

- （１）市街地における農地の保全と有効活用
- （２）市街地に建つ建物の形態の制御
- （３）大都市のドーナツ化現象の解消
- （４）住民自身による戸建て住宅団地の運営
- （５）1階部分の賑わいが途切れない街並みの形成

解答は、日本語または英語を用いること。

- (1) 災害時帰宅困難者への対応方策として「都市再生安全確保計画」が策定される。下記の用語を全て用いて、都市再生安全確保計画について説明し、この計画制度の帰宅困難者対策としての課題と考察を述べなさい（600字程度または、300ワード程度）。

用語欄：都市再生特別措置法，都市再生緊急整備地域，一時滞在施設，一時待避場所

- (2) 下の文章と図は A continuum of disaster に関する説明である。

Whether an event can be defined as a disaster is not a black and white delineation. Rather, think how events occur along a continuum where some events occur as day-to-day emergencies, others as disasters, and on rare occasions, become catastrophes. We distinguish between the concepts of emergency, disaster, and catastrophe.

Brenda D. Phillips, David M. Neal and Gary R. Webb, Introduction to Emergency Management, p.68, CRC press, 2017

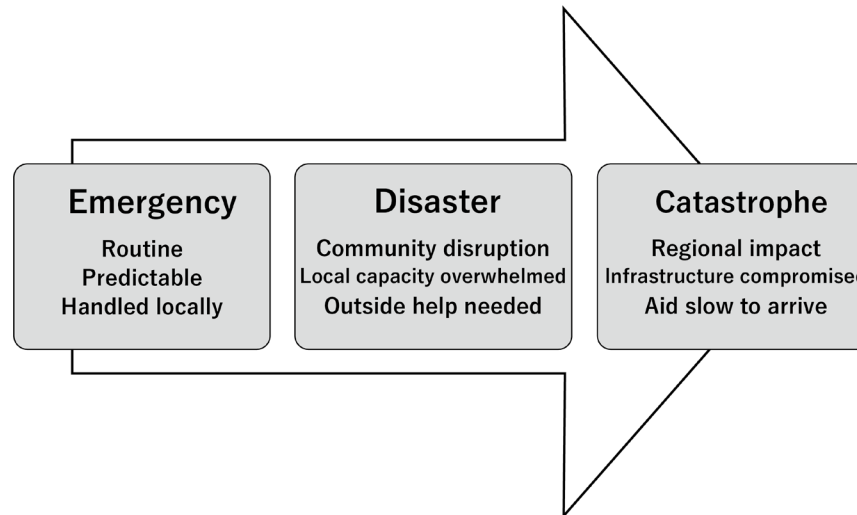


図 A continuum of disaster.

- (a) 図も参考に、Emergency と Disaster の相違を述べ、両者を区別することの意義を述べなさい。
 (b) 著者は上に続く文章で “A catastrophe varies significantly from a disaster.” (ibid, p.70) と指摘しているが、図も参考に、その理由を述べなさい。

次の問題に解答しなさい。解答は日本語あるいは英語とします。

1. Aさんは所得200万円を2期間ですべて消費します。第1期に消費しなかった分は貯蓄し、第2期に消費します。貯蓄には利率5%で利子がつきます。各期の消費をそれぞれ C_1 、 C_2 、Aさんの効用関数を $U=3C_1C_2$ とします。
 - (1) 各期の消費はそれぞれいくらになりますか。
 - (2) 利率が7%に上昇すると、各期の消費はそれぞれいくらになりますか。
 - (3) (2)のとき、Aさんの時間選好率は(1)と比較してどれだけ変化していますか。時間選好率の説明とともに解答しなさい。
2. ある企業が3つのプロジェクトA、B、Cの投資案を考えています。プロジェクトの期間はいずれも3年で、初年度(第0期)に初期投資を行い、その後の2年間に収益が得られるものとします。表は初期投資および収益の見込みを示しており、原価法(正味現在価値法: NPV法)で投資の意思決定を行うものとします。

表 初期投資および収益の見込み

プロジェクト案	初期投資	第1期収益	第2期収益
A	200	100	120
B	600	200	450
C	900	550	400

- (1) 利率が5%のとき、どのプロジェクトが採択されますか。ただし、計算では $(1+0.05)^2=1.1$ として計算すること。
- (2) 3つのプロジェクトが公共プロジェクトのとき、割引率は以下のうちどれを用いますか。記号で解答しなさい。
 - a. 社会的割引率
 - b. 減価償却率
 - c. 内部収益率

景観の保全・形成に果たす法の役割と課題について論じなさい。その際、国レベルの関係諸法を踏まえるとともに、それらと地方公共団体による法的・政策的対応の関係性について、具体的な事例を挙げつつ言及すること。

607

以下の問いに答えなさい。

協力の進化に関する5つの説についてそれぞれ説明しなさい。

- (1) 自然淘汰(選択)説
- (2) 群淘汰(選択)説
- (3) 血縁淘汰(選択／互惠)説
- (4) 直接互惠性説
- (5) 間接互惠性説

※括弧内は同じ内容の異なる表現である。

リンダール均衡における公共財のただ乗り問題について、図を用いて説明しなさい。

(1)(2)の用語をそれぞれ論ぜよ.

(1)NPM(ニュー・パブリック・マネジメント)

(2)公務員のモチベーション

地方自治体の政策決定とそれに関与するアクターの行動を分析する概念に関し、以下の（１）～（３）に解答しなさい。論述に当たっては具体的な自治体名などを挙げても構わない。また、必要に応じて数式や図を用いてもよい。

- （１）「代表的官僚制（representative bureaucracy）」の概念を説明しなさい。
- （２）「底辺の競争（race to the bottom）」の概念を説明しなさい。
- （３）「政策共同体（policy community）」の概念を多角的に論じなさい。

次の文中の [A] ~ [J] について【】内の選択肢の中で最も適切な語句を1つずつ選び、解答用紙に各アルファベットと語句の選択肢番号を記入しなさい。語句は記さないこと。

(1) 以下は『社会学小辞典』に記載されたハビトゥスについての引用である（ただし、[A] [B] 部分は加工）。

『
[A] [B]
』

濱嶋朗ほか編, 1997, 『(新版) 社会学小辞典』, 有斐閣, p505. ただし, [A] [B] は加工.

A 【1. デュルケーム 2. ヴェーバー 3. ブルデュー 4. パーク】

B 【1. 文化的統合 2. 文化的再生産 3. 異文化理解 4. 文化的同化】

(2) 以下は『社会学小辞典』に記載された [C] についての引用である（ただし、[C] 部分は加工）。

『
[C]
』

濱嶋朗ほか編, 1997, 『(新版) 社会学小辞典』, 有斐閣, p92. ただし, [C] は加工.

C 【1. 完全移動 2. 構造移動 3. 強制移動 4. 水平移動】

注意: 次ページにも問題があります

(3) トロウによれば高等教育の進学率はエリート段階、マス段階、[D] 段階へと移行する。特に [D] 段階では高等教育への進学率は50%を超える。

D 【1. コモン 2. グローバル 3. ユニバーサル 4. スタンダード】

(4) 「中範囲の理論」を提唱した代表的な研究者は [E] である。

E 【1. マートン 2. パーソンズ 3. ルーマン 4. ジンメル】

(5) リースマンが提起した人口が初期的減退を迎えた社会に対応する社会的性格は [F] である。

F 【1. 他人指向型 2. 伝統指向型 3. 内部指向型 4. 自己指向型】

(6) [G] はバウマンの現代社会論を最も端的に示す語句である。

G 【1. サブ政治 2. 液状化 3. ハイパーメリトクラシー化 4. 制度化】

(7) ボガーダスが尺度化した社会的態度は [H] である。

H 【1. 社会的距離 2. 疎外感 3. 権威主義的パーソナリティ 4. 中流意識】

(8) ミクロレベルの社会関係資本に着目したリンは、特に [I] という手法を用いて社会関係資本を指標化した。

I 【1. ネームジェネレータ 2. リソースジェネレータ 3. スキルジェネレータ 4. ポジションジェネレータ】

注意: 次ページにも問題があります

(9) [J] は四分表において 2 つの二値変数の関連を捉える際に使用する統計値である。[J] は無関連の時に値が 0、最大関連の時に絶対値が 1 となる。

J 【 1. χ^2 値 2. ユールの Q 3. F 値 4. t 値】

(1) 人口統計・保健統計の指標に関する説明である。空欄(a)～(f)に入る適切な語を書きなさい。

(a) 指数は生産年齢人口 100 人に対する高齢者の数で、高齢者 1 人を何人の生産年齢人口で支えるかを表す指標の計算に用いられる。(b) 指数は年少人口 100 人に対する高齢者の数で、高齢化が進む速さを表す指標の一つである。ある年齢の人が平均してあと何年生きられるかを示した期待値を(c) といい、0 歳児のこの期待値を(d) という。近年は日常生活に制限のない期間を表す(e) の延伸も、保健政策上の重要指標となっている。粗死亡率は集団の年齢構成による影響を受けるため、国際比較や年次推移を調べる際は、基準人口を想定し、その人口構成に換算した(f) が用いられる。

(2) 日本の医療保険制度に関する説明である。空欄(a)～(g)に入る適切な語を書きなさい。

日本は、国民全員が何らかの医療保険に加入する(a) 制度である。医療保険は、給与所得者とその扶養者が加入する(b) 保険と、自営業者や無職者等が加入する(c) 保険に大別される。75 歳以上になると(d) 制度に移行する。医療機関で診療を受けると、実際にかかった医療費のうち(e) 割は保険から給付され、残りは自己負担となるが、小学校就学前や 70 歳以上の人では給付率が異なる。感染症法に基づく入院や(f) の医療扶助など、保険料ではなく税を財源として給付される(g) もある。

(3) 日本の高齢者医療・福祉の法・制度に関する説明である。空欄(a)～(g)に入る適切な語を書きなさい。

1950 年代までは身寄りのない貧困層の高齢者に対する救貧施策のみであったが、1963 年に(a) が制定され、施設福祉や在宅福祉施策、高齢者の社会参加等に関する施策が展開されるようになった。高齢者の増加に伴う老人医療費の増大により、1982 年に(b) が制定され、老人医療費の無料化廃止や中年期からの健康診査等の施策が実施された。介護の社会化、社会的入院による医療保険の負担軽減等への対応として、1997 年に(c) が制定され、2000 年から(d) という社会保険制度が施行された。老人医療費の大幅な増大への対応として、2006 年に(b) を改題改正した(e) が制定され、75 歳以上の人を対象とした医療制度の創設やメタボリックシンドロームの早期発見を目的とする(f) 等が実施された。2019 年には(g) 施策推進大綱が制定され、2025 年を目処に「共生」と「予防」を基本理念として各種の施策を推進することになった。

(4) ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)が豊かな地域の居住者は、健康状態が良いとの知見が報告されている。なぜ地域レベルのソーシャル・キャピタルが個人の健康に影響を及ぼすのかについては、いくつかの仮説が示されている。その仮説の中から 2 つ選び、それぞれについて説明しなさい。

6 1 3

以下の文を読み、日本語もしくは英語で問いに答えなさい。

Read the following sentences and answer the questions in Japanese or English.

Urban polarization^(a) comprises two aspects. The first is the expansion of disparities as a whole (i.e., among individuals and households), and the second is the expansion of disparities between the smaller units that compose cities and regions. The two aspects are closely related to changes in the class structure but must be clearly distinguished.

Despite the expansion of disparity between the inhabitants of a city, the average income in each area that composes the city may remain unchanged, even between regions. However, in the case of regions that are increasingly developing economically, on the one hand and increasingly declining regions, on the other hand, overall inequality and disparities between regions increases. In addition, if increasing disparity creates a poor class^(b) that migrates to areas with lower rents and prices and a wealthy class that migrates to the city center^(c) for the convenience of commuting and comfort despite costly rents and prices, then overall disparities will increase even between regions.

Source: Kenji Hashimoto, 2021, "Time Difference Gentrification as a Bloodless Revolution: Class Structure and Spatial Polarization in the Tokyo Metropolitan Area after the 1980s." *International Journal of Japanese Sociology* 30: 32.

(1) 下線部 (a) に関する議論では都市の中間層に関する変化とその理由についてどのように説明されているか、述べなさい。

Q1 Explain how the discussion on underline (a) describes a change related to an urban middle class and its reason.

注意: 次ページにも問題があります

(2) 下線部 (a) に関する議論では、下線部 (c) においてどのような業種、どのような職業が増えると考えられたか、答えなさい。

Q2 In the discussion on underline (a), answer what type of industries and occupations were expected to increase in underline (c).

(3) 19 世紀から 20 世紀の都市において下線部 (b) に関する社会調査が行われた。そのうち、19 世紀末から 20 世紀初頭のシカゴで行われた社会調査に関して以下を説明しなさい。【調査の実施主体、調査対象、調査手法、その都市の中のどのような地域・場所で実施されたか、調査結果】。

Q3 Social research on underline (b) were conducted in 19th and 20th century cities. Among them, explain the followings about the social surveys conducted in Chicago in the late 19th and early 20th centuries. [who the researchers were, targets of the survey, methodology, the areas or locations within the city where the survey was conducted, research results].

(4) 上記 (3) の社会調査の成果は複数の書籍として出版された。そのうち 1 つを選び、書名、著者名を答えなさい。

Q4 Results of the social research described in Q3 were published in several books. Choose one of them and answer the name of the book and the author.